

【オフィシャル・パートナー企業インタビューシリーズ】

日本ゴールボール協会をさまざまな形で応援してくださっているオフィシャル・パートナー企業の皆さんに、各社のお取り組みや思い、当協会への期待などを伺うインタビューシリーズです。

<第3回：マイテック様> [取材日：2020年10月15日]

携帯電話やIT関連機器を販売する通信総合商社です。東京都の多摩地区を中心に神奈川県や埼玉県のエリアまで約40店舗のモバイルのキャリアショップを構え、携帯電話の販売や取次業務から、メンテナンスなどの相談にも応じています。また、業務用システム関連のサービスとして、コピー機や防犯カメラなど多彩な機器も取り扱っています。

▼公式サイト：<https://www.my-tech.co.jp/>

同社には日本代表選手の天摩由貴選手が2015年4月に入社し、総務部総務課で活躍しています。その後、2019年5月1日にオフィシャル・パートナー契約を結び、応援していただいています。今回は長田達也さん（管理本部総務部総務課マネージャー）と肥後彩華さん（同リーダー）、天摩選手にお話を伺いました。（以下、敬称略）

▼ゴールボール支援の取り組み：

https://www.my-tech.co.jp/pdf/160729_release.pdf

<選手入社を機に生まれたゴールボール応援熱。全員体験で一層熱く！>

——当協会のオフィシャル・パートナーになってゴールボールを応援しようと思ってくださったきっかけから教えてください。

肥後

当社にとってスポーツ支援は初めてでした。きっかけは、天摩が2015年4月に新入社員として入社したことです。採用面接で、「ゴールボール選手であり、競技と仕事を両立させたい」という希望を聞きました。ただ当時は、「ゴールボールとはどんな競技？」という状態でした。

「認知度が低いので広めたい」という天摩の熱意を知り、私たちも競技の勉強をするところからスタートしました。天摩の応援を通して、協会の皆さんの競技普及への熱心な取り組みも知るようになりました。当社の現・代表取締役会長、村上保裕の意向もあり、パートナー契約があれば、より会社の仕組みとして支援体制が作りやすいということで正式に契約させていただきました。



社員研修旅行で、ゴールボールを楽しく体験！

——パートナーシップのきっかけは天摩さんだったのですね。入社されて5年以上が経ちますが、天摩さんは今、どのようなお仕事をされていますか？

天摩

所属は総務部、基本的にはデスクワークです。長田さんや肥後さんからの指示のもと、コンピューターのスキルを活かしてデータの集計作業や資料作りなどを行っています。ただし、東京パラリンピックが近づいた今は競技活動を中心にさせていただいています。

長田

そうですね。ここ2年は競技に専念できる体制にしていますが、天摩はパソコンの知識が高く、大きな戦力として活躍してくれています。

——なるほど。障害者雇用は多くの企業が取り組まれています。条件面などまず制度の整備が必要なケースも少なくありません。御社の場合はいかがでしたか？

肥後

天摩の採用は、村上代表が障害者雇用をテーマにした講演会に参加したご縁がきっかけでした。天摩を紹介されて面接をし、優秀な人材と分かったので採用となりました。

ただ、障害者雇用は当社にとって天摩が初めてのケースでしたので整備は必要でした。競技との両立も希望していたので会社としてどうルールを作るかも課題で、専門のコンサルタントにも相談しながら社内調整を図りました。入社後に再調整した部分もあります。

長田

当社は幸い、小回りの利く企業規模でもあり、自由に設計できる部分も多く動きやすかったというメリットはありました。

——天摩さんを通して知ったゴールボール。どのような印象を持たれましたか？

長田

スポーツは一般に、にぎやかな応援スタイルですが、ゴールボールは静かに見守るのが観戦マナーと知って最初は驚きました。でも、静けさが緊張感をより高め、観戦にも集中できるし、選手の息づかいまで聞こえるほどの迫力。新鮮だったし、面白かった。だから今は、試合があれば、できるだけ会場で観戦するようにしています。

肥後

アイシェードを着けた状態でキビキビ動く選手たちの姿に、「私には絶対に無理！」と感じて、もう衝撃でした。あの重いボールをまっすぐ投げるだけでもスゴイなと思っています。それに、この5年、天摩を間近で見てきて練習量もすごいですし、あのレベルにたどり着くまでの努力を知っているので、応援にもつい気持ちが入ります。

2016年のリオパラリンピックは村上代表と現地まで応援に行きました。代表は体育会系ですが、初めて観戦したゴールボールの迫力と、静けさの中で戦う緊張感に感動しきりでした。



社員研修旅行のゴールボール体験会で

講師を務める天摩由貴さん

——世界最高峰での戦いですから、なおさらですよね。では、パートナーになられてからの活動もご紹介ください。

肥後

以前から天摩の応援に行っていましたが、パートナーとなってからは社員に向けてよりPRしやすくなり、観戦機会が増えました。当社は若い社員も多く観戦希望者も多いです。ただ、業務の中心が店舗運営で週末も営業しているため、なかなか大勢で観戦に行けないのが課題ですね……。

最近では地域のイベントに天摩を呼んでいただき、ゴールボールをPRできる機会も増えています。当社は多摩地区をメインに地域密着で事業展開をしており、特に府中市はスポーツ振興にも熱心です。昨年春、パートナー契約について当社ホームページで告知したところ、声をかけていただけるようになりました。

——地域のイベントとは？

長田

例えば、府中市は「ラグビーのまち」ですが、2019年のラグビーワールドカップ前には地元ゆかりのスポーツ選手を集めた座談会が行われ、天摩もパネリストとして登壇しました。

肥後

東京 2020 大会推進イベントなどにもお声がけいただき、パラリンピアンとして天摩がご挨拶させていただくことも増えています。

——地元の応援は心強いですね。社内的なお取り組みとしてはいかがですか？

肥後

実はパートナーになるよりも前のことですが、天摩が入社してから、「ゴールボールを知ろう」という内容の社員研修旅行を実施しています。伊香保温泉への1泊2日の旅程でしたが、初日に現地の体育館を借りて、天摩が講師を務める「ゴールボール体験会」を行いました。アイシェードを着けて歩く視覚障害者体験から始め、徐々にボールに触ってゴールボールの基礎練習。最後は試合も行いました。なかには、「天摩さんに挑戦だ」と、ライバル心を燃やす社員もいて……。

天摩

そうなんです。アイシェードをした私対社員3人が対戦するのですが、みんな「天摩から点を取ろう」という感じで投げってくるので、私も本気で受けました。



試合体験でも大盛り上がり。「天摩さんに挑戦だ！」

肥後

実は全社員280名を4グループに分け、同じ内容の旅行を4回行いました。4回とも講師を務めた天摩はすごく大変だったと思います。

でも、参加したスタッフからは、「楽しかった」「天摩さん、すごい！」なんて感想が聞こえてきましたし、アイシェード体験も普段なかなかできないので、いい経験になったと思います。廃校になった小学校の体育館を借りて、自分たちでコートを作るのは少し大変でしたが、やってよかったです。

今年はコロナ禍で中止しましたが、また再開したいですね。天摩は大変かもしれませんが(笑)

——たしかに、天摩さんはフル稼働でしたね。いかがでしたか？

天摩

試合は「怖い」という人もいたので希望者だけですが、少なくともボールは全員に触ってもらうように心がけました。日常的に関わる本社の人たちと違って、店舗で働く皆さんとの接点は少ないので、社員旅行という機会を使ってゴールボールを全社員に知ってもらえてよかったと思っています。

また、最近は社内で、「ニュースで見たよ」「動画で試合観戦したよ」など声をかけてもらうことも増えていて嬉しいです。ゴールボールはもちろん、パラスポーツへの関心や意識も高まっているように感じています。私自身は知らないのに、「昨日、テレビに出てたね」「新聞記事を読んだよ」と言われることもあります。見ていただけることは励みにもなりますし、PR活動の手ごたえを感じています。

——体験してこそ、分かる面白さもありますよね。

肥後

社員研修旅行には村上代表も参加しています。代表自らアイシェードを着けて視覚障害者体験をしたり、ゴールボールにチャレンジしていました。そんな姿勢を社員に見てもらえたことも会社としての一体感にもつながり、よかったなと思っています。

——視覚障害への理解も進みそうです。

天摩

そうですね。私自身は日常生活でそれほど苦労してはいないので、視覚障害にマイナスのイメージを持たれるとちょっと困るなとは思いますが、たしかに見えないことで困ることや難しいことはあります。なので、こんな困りごとがある、こんなサポートをしたら助けになるといったことに気づききっかけにしてもらえたら嬉しいです。

また、店舗には視覚障害者だけでなく、例えば車いすの方や高齢者でサポートが必要な方も来店されると思います。そんなときに、さりげないサポートが自然にできるようになってくれたらいいなと思います。



ゴールボール体験を通し、視覚障害への理解、サポートへの気づきにも

——天摩さんやゴールボールとの出会いが、社員の皆さんの視野の広がりにつながっていくといいですね。社内で変化を感じることはありますか？

天摩

そうですね。社内を歩いていて、「ぶつかるよ」「危ないよ」と声をかけていただけるようになりました。ありがたいです。

長田

実は、床に物を置かないようになってオフィスがきれいになりました。昔は段ボールを置いたり、いすも出しっぱなしでしたが、大きな変化です。

——いい気づきになっているようですね。逆に支援に関して課題はありますか？

肥後

先ほども言いましたが、試合観戦やイベントの参加人数を増やしたいです。週末は店舗の営業が優先ではありますが、参加しやすい仕組みづくりを考えて行けたらと思います。平日にイベントがあれば社員を集めやすいので、協会さんには今後ぜひ検討いただきたいです。

天摩

去年のアジアパシフィック大会は開催期間が5日間と長く、毎日交代で応援に来てもらえて嬉しかったです。

肥後

アジアパシフィック大会は決勝戦が平日だったので、社内でYouTube観戦した社員も多かったですね。とても盛り上がりました。

——今後、新たに企画している活動はありますか？

肥後

社員研修旅行以降に入社し、ゴールボール未体験のスタッフもいますので、体験会はぜひ行いたいと思っています。社員研修旅行に限らず、平日の単発イベントとしての実施や、お子さんなど家族で参加できるイベントなども今後、検討したいと思っています。でも、社内だけで行うのは限界がありますし、天摩の負担も大きいので、協会とコラボしての開催の可能性も探れたらと思っています。

——ありがとうございます。ぜひ前向きに検討したいと思います。では最後に、天摩さんをはじめ、選手たちへのエールをお願いします。

長田

コロナ禍の大変な状況の中でも、天摩をはじめ、ひたむきに競技に取り組んでいる選手の皆さんの姿は、「我々も、がんばらねば」という動機づけになっていますし、多くの人にいい影響を与えています。ぜひこれからも頑張ってください。

肥後

協会のパートナーになってから選手壮行会などに参加するようになり、天摩以外の選手と交流する機会も増えているのですが、皆さん、本当に明るいですね。でも、相当辛い練習を積んでいらっしやるのも、天摩を見ていて分かります。私たちもできる限りサポートしていきますので、表彰台に上がる姿が見られることを願っています。

——そんな応援を受けて、天摩さん、いかがですか？

天摩

私は結果を出すだけだと思っています。結果を出すことは、より多くの人にゴールボールを知ってもらえるきっかけとなり、さらに応援してもらえると思います。引き続き、頑張ります。

また、社員旅行でゴールボールを知っていただくことは達成できたので、次の段階として試合の応援にきてもらったり、協会の Youtube チャンネルやフェイスブックページへの関心も増やしていきたいです。私も引き続き、PRなどで貢献していきたいと思っています。

——社員研修旅行でのゴールボール体験など、とても参考になりました。これからも応援をお願いします。ありがとうございました。



本社エントランスに設置されたゴールボールのパネルボードの前で。
左から、肥後彩華さん、天摩由貴さん、長田達也さん